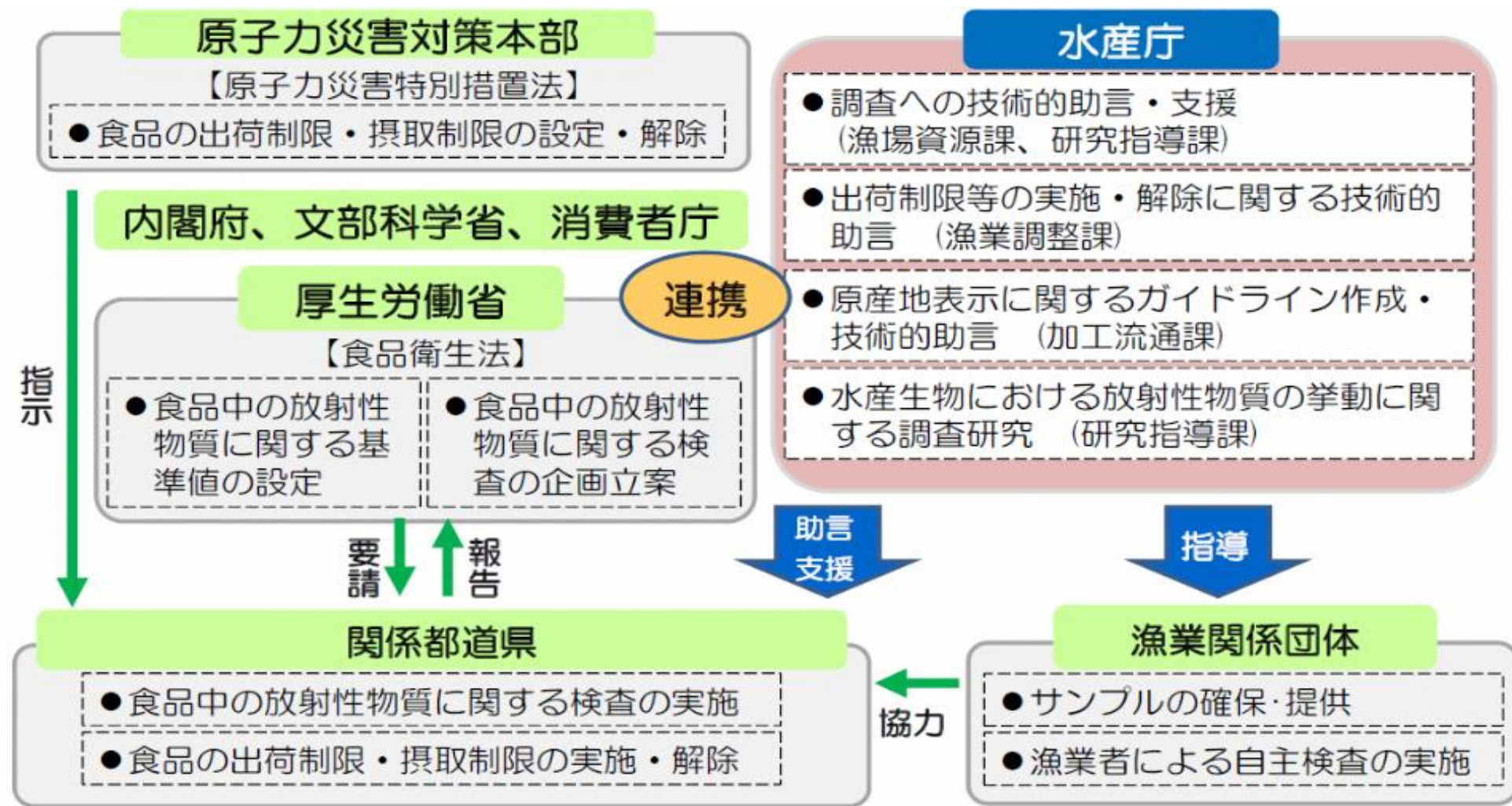


淡水魚の放射性セシウム濃度の推移 (緊急時環境放射線モニタリング)

福島県内水面水産試験場

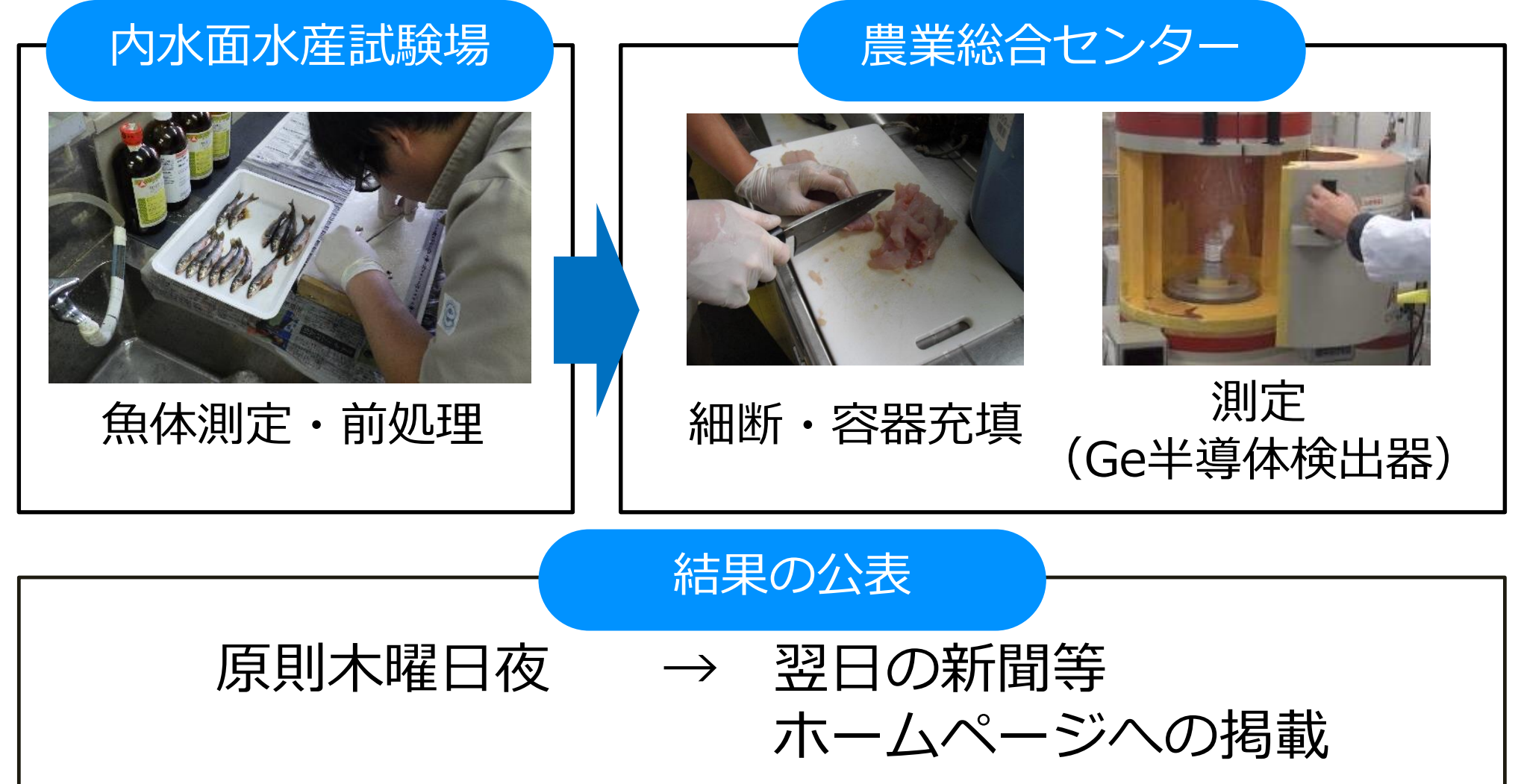
背景

- 県では関係漁協等の協力を得ながら、県内の帰還困難区域等を除く養殖業者及び河川湖沼から内水面魚介類を採取し、食の安全安心を確保するための緊急時環境放射線モニタリング検査を行っています。検査結果は、出荷等の制限・解除の根拠資料となるほか、各種解析に活用されています。



材料と方法

- 2011年度～2020年度に緊急時環境放射線モニタリング検査結果が公表された、天然魚（湖沼・河川採捕の魚介類）及び養殖魚について、現在の状況を整理しました。



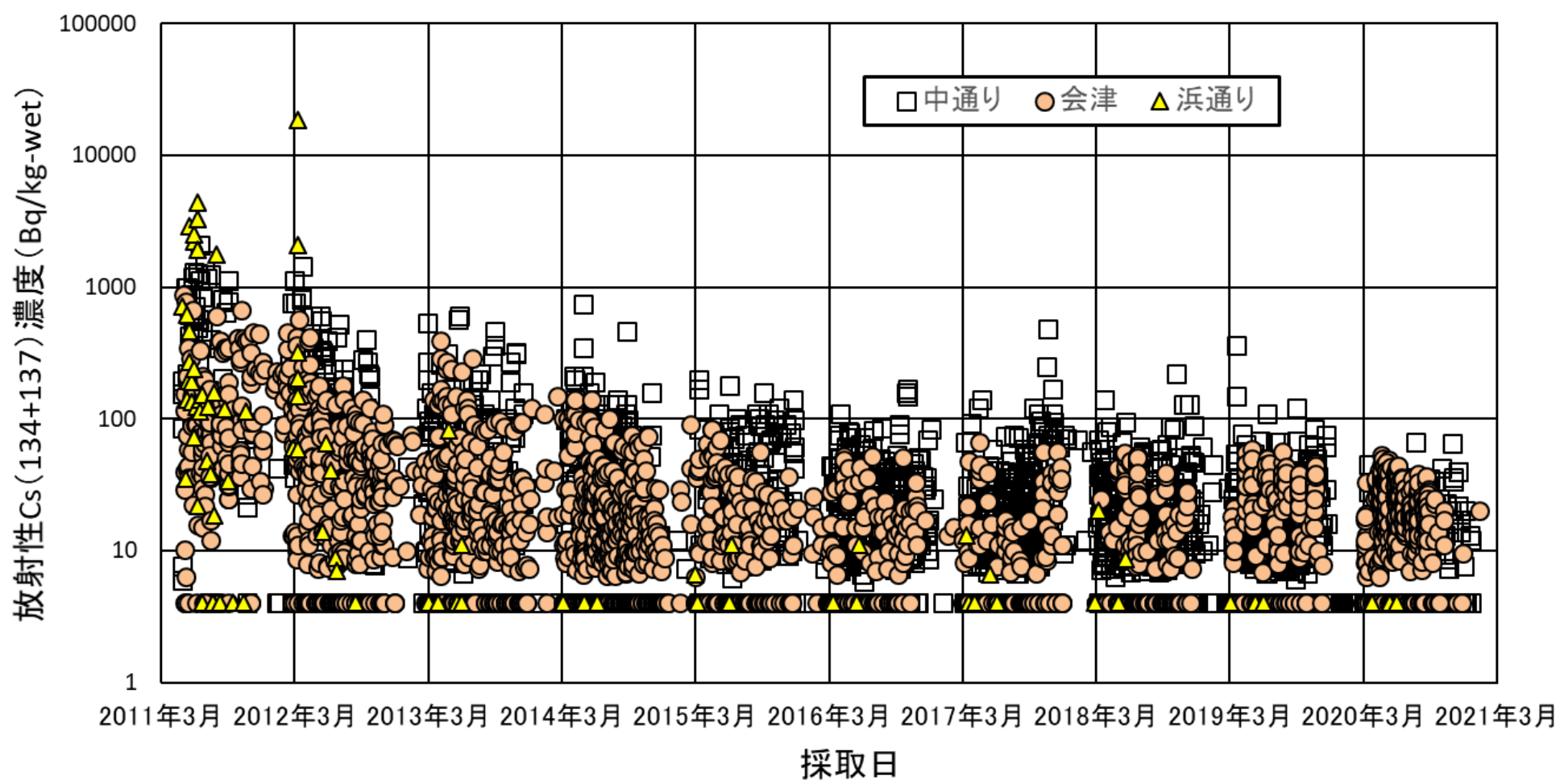
※緊急時環境放射線モニタリングは、第一原発近傍の双葉郡では、立入制限等により実施できておりません。

結果

検査結果（～2020年度）

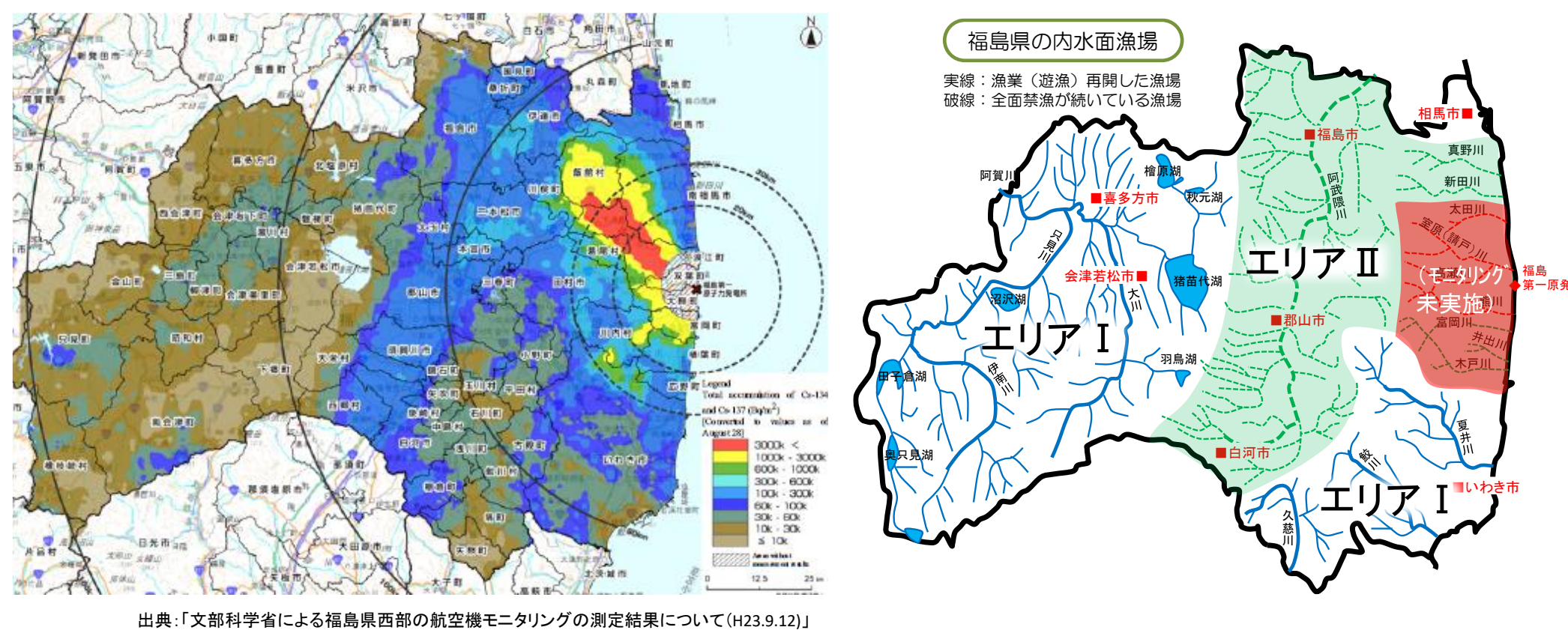
- 養殖魚は、事故から2年目の2013年度以降、1件も超過がありません。
- 天然魚は、事故のあった2011年度は半数を超える検体で基準値を超過しましたが、2015年度以降は検体数全体の1%前後で推移しており、2020年度は基準値を超過した検体はありませんでした。
- 放射性セシウム濃度の推移を3方部（会津地方、中通り地方、浜通り地方）ごとに示したグラフです。
- 2015年以降、会津及び浜通りでは基準値超過は無く、中通りの河川である阿武隈川で基準値超過がみられました。

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
養殖魚										
検体数	172	178	162	169	138	117	74	64	67	22
うち基準値超過	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
基準値超過割合 (%)	1.7%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
天然魚										
検体数	345	491	514	759	495	592	699	851	1103	664
うち基準値超過	180	83	54	27	7	4	10	5	2	0
基準値超過割合 (%)	52.2%	16.9%	10.5%	3.6%	1.4%	0.7%	1.4%	0.6%	0.2%	0.0%

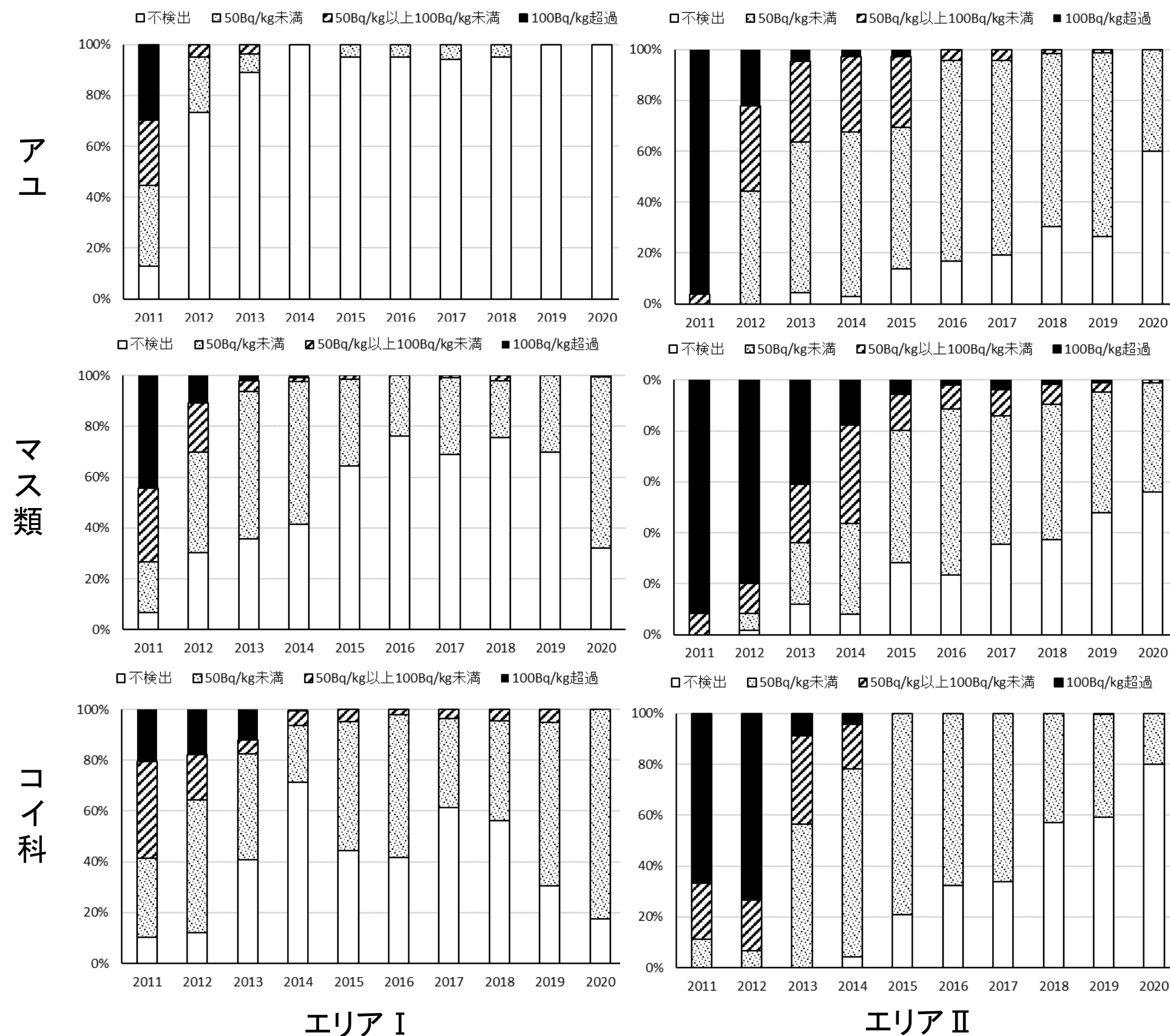


エリア別の傾向

- 緊急時環境放射線モニタリングを実施した水域について、汚染度合（航空機モニタリング結果：文部科学省）を基に2エリアに区分しました。



- エリアごとに、アユ、マス類（イワナ及びヤマメ）、コイ科（ウグイ、コイ及びフナ類）の主要魚種に分け、濃度区分別の検体数の割合（%）で整理しました。
- 震災以降、エリアIIではエリアIよりも各魚種の濃度が高い傾向にありますが、直近の2020年では、エリアI、IIともに、50ベクレル/kg未満の検体がほとんどとなりました。



参考 国が出荷制限指示発出・県が採捕自粛要請している魚種と水域図

